



# 富山駅南北軌道一体化後の運賃について

平成15年からスタートした富山駅一帯の整備が、南北軌道の一体化で概ね完成することとなる。この間、ライトレールの開業、ライダーバス、コミュニティバス、まいどはやバス等の公共交通の開始、新幹線の開通や、

JR線のあいの風鉄道化等様々な動きがあったが、10月31日の北日本新聞において、市長より一体化後も200円という運賃体系について触れた記事が掲載された。「駅を超えれば400円というのでは納得がいけない」という話までは市長の口から聞いたこともあったが、今回は踏み込んで200円固定という体系に言及している。何らかの目途が立ったのかを確認したい。

## 質問の本意の目的

何より、公共交通シス

## 政務活動費問題その後

### 第三者機関

現在、政務活動費は、公認会計士による第三者機関の事前チェックを経て使用が可能となっています。書式も定型でまずまず合理的な様式になっています。現時点で、今まで問題になったような形での不正使用は起こりえないと断言できるところまでできました。ただ、本来使ってはならないと決めている経費（横領等ではなく、目的としておかしなもの）は補選後にもあると私は考えています。\*これは皆さんからすると意外な会派です

今、この第三者機関を止めさせようと請願を紹介した議員が出てきました。何とも情けない限りです。この第三者機関については、実のところ私は採用前に反対をしていました。その費用が政務活動費から出る為です。しかし、議事録を見ても、異議なしの声の前に可決されています。私は議論終了後採決の際に、声に出さず反対を唱えただけです。当然決定事項には従うべきだと考えています。

よく富山市議会の改革ランキングの順位が低いとまくしたてる議員がいます。これは早稲田大学のマニフェスト研究会による順位を指してそういうのですが、私はこれも自分の価値観を持って判断すべきと思っています。この早稲田大学マニフェスト研究会では、第三者機関によるチェックは必須と言っています。皮肉なことに、日頃マニフェスト研究会の威光を傘に声を上げている方々が、第三者機関の廃止を言い出しているのです。自分で考えないとこんな矛盾にも気づかない。残念なことです。

# 今回の質問の概要

質問している私の頭の中はこんな感じ

## 視覚障害者への行政サービスについて

6月定例会において、視覚障害者の方に対する「同行援護サービス」を使用したタンデム自転車の利用について「の質問を行ったが、その後、視覚障害者を持った方と知人となった。親しくなる中で、自分が市会議員であること、そのような質問をしたことについて感想を聞いて

みたが、あまり喜ばれる質問ではなかったようである。しかし、そういった質問をしたこと自体は驚きをもって歓迎された。多くの問題が行政にあるにも関わらず、今まで改善に向けた取り組みがなかったからである。それらの問題にスポットを当て少しでも解決に尽力したく提起するものである。

- 選挙公報について
  - 視覚障害と聴覚障害
  - 福祉サービスの書類
  - サービスの給付
  - 社会の動き
- 少しでも行政の対応が改善するよう質問します。
- 市長答弁確率 90%

## 鳥獣被害（ニホンザル）対策について 会派自民党による細入市政報告・広聴会より



富山市の市町村合併前には126人いた、市町村議員は現在38名となり、以前は一つの自治体であった旧細入、山田には議員が一人もいないという現状である。会派自民党では全市をカバーし、きめ細やかな市民の声に耳を傾ける努力をしております、その一環として、先月の11月18日、細入、大沢野下

夕地区、所謂神通峡地区を対象として、市政報告・広聴会を開催した。事前に地元の課題を調査したところ、有害鳥獣特にニホンザルの問題に大変困っておられることが分かり、そのテーマの一つの課題として市政報告を行った。

調査活動の為に細入の現地に足を運んだ時も、ニホンザルの群れに遭遇したが、試しに威嚇してみたところ、サルたちは全く動じるそぶりも無かった。

富山市の報告では、過去の議会への答弁を含め被害額は減少しているとの表現が使われる。しかし、被害額は出荷金額であり、自給用の作物被害や生活環境被害はその数字に表れず、到底減少しているものとは言えないのが現状である。



今年度、自民党新風会から自民党に合流し、現在副政調会長を務めています。政調会は、会派の議員としての対外的な政治活動の取組を計画したり、実行する役割です。

新人の目線で好きなように活動してよいと言われ、最初に取り組んだのが、八町の交差点の問題です。会派全体で動くことで、行政、業者、マスコミ等全てが大きく動くことを実感しました。

第2弾として、議員の誰もいないエリアでの市政報告会です。こういったことを積み重ね、自民党の信頼と評判を少しずつ底上げし、更なる政治的な実現を目指して頑張りたいと思っています。

命ある生き物が相手の話であり、全国的にも解決が困難な課題であることから、大変難しい課題

平成24年より、ネイティブスピーカーふれあい事業としてフリーピンより、ネイティブスピーカーの国際交流推進員を招へいし、一部の固定した小学校に配置している。当初は2名からスタートしたが、翌年には3名となり、27年には4名、昨年より5名の配置になっている。年間予算は1年あたり千八百万円かかる規模まで拡大しており、教育的見地から効果を検証する必要がある。

その効果について学校教育課に質問したところ、明確な回答はなかった。それは決算委員会に置いても同様である。因みに、平成28年度の教育委員会事務管理執行状況点検評価報告書においては、「もの怖じせずコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度が児童生徒に育ち、英語を使ってコミュニケーションを図ることがごく自然なことであるとの認識が高まってきた。」とあるが、根拠はない。また、本来教育と行政の施策はそれぞれ独立しているものである。

## ネイティブスピーカーふれあい事業について

### 本質問に当たり、調整すべき課題

年に一度、全部署の業務報告が決算報告として議会の決算委員会にかけられます。今年度の自民党は若返ったことや、一連の政務活動費の問題でやる気満々の議員が増えた為、ほぼすべての事業に目を通し、チェックしています。そこで、このネイティブスピーカーふれあい事業のことも、どうして中心エリアばかりの配置かを訊ねる旨の質問を書面で出したところ、『中心市街地に配置しました』との意味不明の返事が返ってきました。教育課長と面談し、確認したところ、明らかに議会側を馬鹿にした態度で、要は適当に回答しておきたいことだったわけですね。

そこで議会で足跡を残すために質問することを伝え、今日に至っています。本来、市の一般行政と教育行政は分離しており、市長も教育行政には口出し出来ないことになっています。しかし、この件では市の主要政策であるコンパクトシティ政策が大きく影響しており、逆に文科省の小規模校に語学を学ばせればという提案はおざなりにされています。実をいうと、ある程度は市の政策の影響を受けることも私はあると思っています。よって、この質問はどのように進行するか、直前の今でも頭を悩ましています。本質問は最後の質問の為、残時間の影響を受けず、展開はいかに！